

神奈川建協、磯子 工高で出前講座

神奈川県建設業協会（松尾文明会長）は22日、横浜市磯子区にある県立磯子工業高校で出前講座を行った。写真。建設科の2年生35人が参加し、建設の魅力に触れた。開催に当たり、小俣組の瀬戸隆利氏は「将来の就職先になる建設業を知ってもらいたい。今日は建設機械に実際に触れて、体験して良い経験ができると思う」とあいさつした。



出前講座は高校生に建設

業の仕事を知ってもらい、入職につなげるのを目的に、2023年度から新規に行っている。会員企業の小俣組がドローン、相模開発が舗装、花和産業が遠隔管穴あけ、浜崎建設工業が人力作業と機械作業の違いについての実務体験を行った。

同協会では23年度中にもかの5校で出前講座を行い、建設業の入職を促進する。

初の出前講座を実施

磯子工業高校35人が参加 ドローンや建機など体験

神建協

県建設業協会（松尾文明会長）は22日、県立磯子工業高校（横浜市磯子区）で第1回建設系工業高校出前講座を開いた。（写真）

これは、県内建設系工業高校の生徒が実施するキャリア教育に積



極的に協力し、建設業に関係する様々な体験を通じて、建設業界を身近に感じてもらう。地元建設業を進路とする生徒を一人でも多く増やすのが狙い。今年度から初めて直接学校へ出向き、会員企業が

講師役となり、出前授業を実施するもの。この日は、建築科2年生35人が参加。顔合わせ、概要・注意事項説明に続いて、4グループに分かれて30分ごとの体験学習を行い、ものづくりの楽しさを体感した。授業内容と講師は、ドローン体験（飛行実演など）が小俣組の瀬戸隆利氏と中山慶一郎氏ら、建機体験（人力作業と機械作業の違い）が浜崎建設工業の濱崎貴氏ら、下水道管更生孔あけ体験（遠隔管穴あけ）が花和産業の永井啓太氏ら、アスファルト舗装体験（舗装や重機搭乗）は相模開発の木村良子氏らが、それぞれ担当した。